

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」学校

「つなぐチカラ」(知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ)を育むことで、社会に貢献する人材を育成する。

1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ(夢を叶える)」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

## 2 中期的目標

1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)

(1) ユニバーサルデザインに基づいた授業をめざして、授業充実に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業充実に取り組む。

「視覚化・構造化・協働化」をより具体化するための ICT を活用した授業を進化させる。

\*生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度(平成27年度59%)を平成29年度には70%以上をめざす。

\*生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度(平成27年度80%)を平成29年度には82%にする。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア「総合的な学習の時間」やLHRの時間に、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

\*生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度(平成27年度68%)を平成29年度には75%にする。

\*学校斡旋就職率100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率95%を維持する。

2. 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)

(1) 総合的な学習の時間やLHRで人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア「中国等帰国生及び外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

\*生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率(平成27年度53%)を平成29年度には60%にする。

3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)

(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援

ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

\*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率(平成27年度72%)を平成29年度には75%以上にする。

\*保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率(平成27年度79%)を平成29年度には80%にする。

イ「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

\*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度(平成27年度43%)を平成29年度には48%にする。

(2) 生徒会活動や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

\*生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度(平成27年度73%)を平成29年度には75%以上をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

\*部活動加入率は50%を維持する。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

\*近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】生徒の 84 (80) %、保護者の 84 (85) %が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因である。「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が昨年度の 59%から 63%に上がっている。昨年度、全普通教室にプロジェクターとタブレット端末を導入した効果があらわれた。また「教え方に工夫をしている先生が多い」も 60%から 65%に上がっている。授業の視覚化が着実に進んでいるためである。「授業で自分の考えをまとめたり、パソコンなどを使用して発表する機会がある」が 31%から 58%に大幅に上がっている。アクティブラーニングを意識した授業が多くの教科で実践されている。今後、さらに授業の視覚化・構造化・協働化を進め、生徒の「つなぐチカラ」をつけさせる授業作りに全校で取り組んでいく必要がある。</p> <p>【生徒指導等】生徒指導の面で 87 (88) %以上の保護者が生徒を正しい方向に指導していると評価しているが、生徒指導の方針に共感できるという回答は 70 (70) %だった。教職員の 93 (89) %以上が生徒指導で家庭連携ができていますと答えている。常識やマナー、他者への思いやりや配慮に重きを置く本校の生徒指導に、生徒の視点に立った納得感のある指導をおこなっていくことが必要である。生徒の 71 (72) %が「生活規律や学習規律の確立に力を入れている」と肯定的に捉えており、「安全で安心な学校」を維持するためにも、全教職員が「生徒の意欲を高めるための生徒指導」という共通認識を持つことが重要である。「文化祭は周りとは協力しておこなえる」69 (74) %、「体育祭は周りとは協力しておこなえる」75 (74) %であった。「部活動は活発である」は 58 (54) %で上がってはいるが、さらなる活性化のために、頑張った結果を出している生徒を校外にアピールし、本校の部活動を周知する取組をしたい。今後、全ての学年で「やる気のある」生徒のリーダーシップを育成するために、生徒を中心に活動をおこなっていくようにすることが、生徒の自主性を伸ばすとともに生徒会活動や部活動さらには学校生活の活性化につながっていくものと考えられる。80 (79) %の保護者が進路指導に対して肯定的に答えている。これは大阪府内平均よりも高い就職内定率や進学希望者ほぼ全員の合格率を誇る進路指導への信頼感が大きく影響している。今後も進学指導を充実させ、進路・学年が連携し進学講習等の指導に取り組む必要がある。文化祭や体育祭等の行事、部活動活性化等における生徒会役員の貢献は非常に大きい。今年度も、学校説明会など生徒会を中心におこなった。また、全校集会では生徒会からのお知らせをおこなった。今後、生徒が活躍できる場をさらに増やしていきたい。生徒会役員や生徒委員会を中心・リーダーに据え、全学年で生徒会活動への理解を深める必要がある。</p> <p>【学校運営等】「学校に行くのが楽しい」は 62 (64) %、「自分のクラスは楽しい」は 67 (70) %で昨年度より下がった。来年度は「生徒ファースト」をテーマに学校の全ての教育活動を検討し、満足度をあげたい。「相談に適切に応じている」と答えた保護者は 83 (83) %であった。今後には連携を密にして共通認識を持つことが必要である。一方「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は 63 (57) %だった。生徒の満足度を上げるために、教員と生徒と関わる時間(量)の確保とカウンセリングマインドをもった生徒との関わり(質)を学校全体で検討・工夫する必要がある。「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」が 71 (85) %であった。校長ブログ等で学校の情報を発信しているが、今後さらに学校からの情報を素早く発信できるシステムを考えていく必要がある。( )内の数字は昨年度の結果です。</p>	<p>第1回 (平成 28 年 6 月 22 日)</p> <p>ア) 総合学科では、幅広い学びが期待できる。なかでも、1年生の「産業社会と人間」により、将来について学ばせることは重要である。生徒のニーズが変われば、それに見合ったカリキュラムを立てる必要がある。生徒や教員にとって、この学校改編が、実りあるものとなればよいと考える。</p> <p>イ) 生徒のニーズに合った学校、卒業してよかったと思える学校を築いてほしい。生徒のやる気、保護者のバックアップ、そして教員の熱意があれば、生徒の自尊心の向上につながると思われる。魅力ある総合学科をめざしてほしい。</p> <p>第2回 (平成 28 年 10 月 13 日)</p> <p>ア) 外国人生徒が多数在籍しており、7限目の授業や高大連携事業などの取り組みにより、母語保障と日本語教育にも力を注がれている。また、「自立支援」として、大学生等の出前講座やボランティア授業などの展開を取り入れてはどうか。</p> <p>イ) 教育の目標は、「自分に自信を持たせ、居場所があり、他者をリスペクトする力を育むこと」という言葉がある。総合学科高校として、そのような教育の目標に向かって進んでほしい。</p> <p>ウ) 総合学科への改編に当たり、これまでのエリアや培ってきた伝統・内容を継承することであるが、改編において、残すものと変えるものを決めることも大切である。今後もしっかりと地域の学校として、その役割を果たしながら発展してほしい。</p> <p>第3回 (平成 29 年 1 月 30 日)</p> <p>ア) 看護系列を立ち上げるのであれば、教員の常勤配置を考えなければならない。</p> <p>イ) 生徒指導においては「ぶれない、ずれない、崩れない」が大切である。指導のプロセスは様々であるが、結論はひとつでなければならない。</p> <p>ウ) 自尊感情を育てることが大切である。自信を持って学校生活を送る生徒は多くはない。まずは、どんな些細なことでも褒めることから始める。ただし、生徒の環境は様々であるため、みんなの前で褒めることがよい場合と間接的に褒めることがよい場合がある。まずは、教員が子どもを理解することが大切である。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)	<p>(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実の取り組み ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実の取り組み イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>(1) ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。 イ・授業充実研修でICTを活用した授業、アクティブラーニングを実践例とした研修を実施し、相互研鑽の場とする。</p> <p>(2) ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。 ・キャリアガイダンスを充実させるとともに進学講習体制を確立する。 イ・就職支援コーディネーターを活用し、模擬面接、インターンシップ等を充実させる。</p>	<p>(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見 80%を維持(平成 27 年度 84%) ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度 80%にする。(平成 27 年度) 授業に関する満足度 65%以上をめざす。(平成 27 年度 58%)</p> <p>(2) ア・生徒の希望する進路の実現率 95%を維持。(平成 27 年度 98%) イ・1 回目の就職試験合格率 70%以上を維持。(平成 27 年度 86.2%) 学校斡旋就職希望者の就職率 100% (平成 27 年度 100%)</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの「授業展開」について、第 1 回 84%、第 2 回 84%が肯定的な回答をしている。(◎) ・生徒の 80%、保護者の 85%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。(◎) ・生徒の選択科目に関する満足度 80%、授業に関する満足度 63%となり、ICT機器活用、アクティブラーニングの視点を取り入れる授業が増加し、授業の満足度が大幅に上がった。(◎)</p> <p>(2) ア 3/10 現在、大学・短大・専門学校等への進路実現率は 95.6%、医療・看護系は 80.9%となっており、健闘した。選択科目や進学講習での受験指導により、進路実現につながった。(○) イ 就職試験の一次合格率は 74%、学校斡旋希望者の 100%となった。学年、進路指導部の丁寧なサポートが、進路保障につながっている。(◎)</p>
2. 文化をつなぐ(人権意識をもち生徒の意識)	<p>(1) 人権教育のさらなる充実 ア「中国等帰国生及び外国人生徒」と「日本人生徒」との共生</p>	<p>(1) ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 56% (平成 27 年度 53%)</p>	<p>(1) ア・生徒の 89%が「人権について考える機会がある」、88%が「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」と答えている。本校での丁寧な人権教育への取り組みにより、人権学習に取り組むことができている。今後も1年次からの計画的に人権学習を丁寧に取り組んでいく必要がある。(◎)</p>
3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実 イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。遅刻の多い生徒に対しては必要に応じて放課後指導を行う。 イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会(週1回)やスクールカウンセラーと連携し、課題を抱える生徒の状況把握し、支援を行う。必要に応じて「個別的教育支援計画」の作成や、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。 ウ・人権教育推進委員会、CF委員会(中国等帰国生徒及び外国人生徒に対する検討委員会)が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2) ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。 イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。 ・中高連携の部活動交流を行う。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3) ア・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア・生徒一人当たりの遅刻回数 5回以下(平成 27 年度 3.8 回) ・生徒の懲戒件数 15 件(平成 27 年度 19 件) ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度 73%以上(平成 27 年度 72%) イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率 45% (平成 27 年度 43%)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度 75%以上をめざす。(平成 27 年度 73%) イ・部活動加入率 50%をめざす。(平成 27 年度 44%) ・大会やコンクールの入賞数 10 以上(平成 27 年度 15)</p> <p>(3) ア・地域のイベント参加数 25 件以上(平成 27 年度 32 件) ・校区一斉清掃活動、南区クリーンキャンペーンへの参加各 15 名以上(平成 27 年度 51 名) ・近隣の 13 中学校訪問を最低 3 回ずつ実施(平成 27 年 4 回) ・地域連携授業の継続実施</p>	<p>(1) ア 生徒一人当たりの遅刻回数 4.5 回(◎)、生徒の懲戒件数 27 件(△)、生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立の肯定度 71%(△)であった。全教員による朝の挨拶運動、登校指導、遅刻指導、納得感のある生徒指導により、基本的生活習慣の確立に関する肯定度を高めた。 イ・本年度から、教育支援委員会(週1回)を設置し、支援カードの活用方法を検討している。教育相談に関する項目における肯定率 47%となり、大幅に上昇した。今後も一層のスクールカウンセラーとの連携をはかり、教育相談機能を充実していく。(◎)</p> <p>(2) ・学校行事・部活動に関する項目における満足度は生徒向け 71%、保護者向けは 72%になった。体育祭が天候不良の中、生徒の協力により実施できた。学校行事への満足度は若干下がったが、生徒の学校行事や部活動への取り組みを丁寧に支援したい。(○) ・学校見学会の実施後のアンケートにおいても 98%の生徒が良かったと答えている。これには生徒会執行部の頑張りによるものが大きい。(◎) 今後はさらに生徒会執行部を中心に学校見学会などで活躍できる場を設ける。 ・部活動加入率は、全体では 41.4%になっている。(△) 年度当初より、退部する生徒が少ないが、加入率を高めるために体験入学等の入学当初の取組や大会入賞の支援を続け、引き続き中学生対象の体験入部、中学校とのクラブ交流を実施する。 ・大会やコンクールの入賞が、45 件となった。放送部:第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト大阪大会総合 3 位校、ダンス部:西日本ダンス選手権第 5 位となり、府レベルでの表彰となった。硬式テニス部、軟式テニス部も中央大会に進出した。バドミントン部も堺市レベルで入賞している。サッカー部、バスケットボール部は、公式戦で健闘している。(◎)</p> <p>(3) ・近隣の中学校訪問を 7 回以上実施し、中学校との連携を大切にすることで、教育活動へいかすことができた。(◎) ・地域のイベントには、36 件、666 名(延べ人数)参加した。地域清掃等は美木多中学校区の清掃は 30 人参加予定だったが、雨天中止、南区クリーンキャンペーンは考査中のため教員 3 人が参加した。(◎)</p>